

(モニタートーク結果概要)

対話テーマ：コロナ禍における滋賀県の広報広聴活動についての意見交換会

日時：令和3年3月21日(日)

参加者数：県政モニター 5名(欠席 1名)

○紹介した取り組みに関するご感想や御意見、また今後必要となる広報・広聴活動の取組についてSNSを活用した広報について

・県は、Facebook での情報発信をされているが、若い世代は、Facebook より Twitter の方がよく使う。文字制限があるので、短いセンテンスで分かりやすい。最初の入りを Twitter にして、詳しい内容については URL を貼るようにはどうか。インスタは登録していないと見ることができないが、Twitter は誰でも見ることができるのがよい点。

・Twitter は、短いセンテンスで発信されているのでよい。文字制限はあるが、だからこそ 140 文字は重要なエッセンスだ。インターネット環境が使えない方の取り込み方が課題。

・ユニバーサル、多様性を大事にし、どれかにだけ頼らず、まんべんなく行う。

・紙だと資源の問題もあるので、紙に頼りすぎない情報発信。

・インターネットを活用した色々な発信で双方向性が図れる。6～7割位の方に伝わると思う。

・おうみ発 630・おうみ 845 で情報を得ているので、NHK と協力を行ってはどうか。動けない人は、TV で情報を得ている。

広報誌に関しては、新聞を取っていない方が多い。届ける方法を変えることで声なき声につながるのではないか。

○「知事への手紙」について

・物凄い量の知事への手紙が来て大変であったと思うが、知事の手紙があると知ってもらえたきっかけになったのでは。コロナが終わっても、LINE で送る手段を置いておくと、産業など他の、何か御意見がある場合に提案しやすい。よくある質問を HP に載せておくと、ある程度安心するのではないか。

・意見への応答について、AI 化、デジタル化で対応すればよいと思うが、一方「心が伴わない」ようにも思う。

・インターネット環境が整っていない方もいる。TV 滋賀プラスワンでよくある質問の回答など発信する(「知事への手紙返答コーナー」をつくる)のはどうか。

・Q&A 方式で HP に掲載してはどうか。Q&A をまず見て、それから質問と思うので、よくある問い合わせを載せるとよいかと。

・県の HP を参考にさせてもらっているが、現状の HP は、コロナ情報でふさがっていて、コロナ以外の情報が見にくくなっている。コロナはコロナで集約し、見やすい滋賀県の魅力ある HP に。

・返事は AI 方式にしてはどうか。例えば、オートチャットボットの活用。送った側は、何か返信があると届いたのだと安心する。県民の皆さんの不安を払拭することが大事。

○「声なき声」の収集方法として、アナログな手法との併用(例えば地元スーパーに協力いただき、年代毎のアンケートを収集するなど必要に応じて検討)について

・声なき声を集める手段として、スーパーでアンケートを取ることに、コロナ禍のため、なるべく短時間で買い物を済ませたいと思っている方が多いと思うので、人を捕まえるのが大変なのではないか。美容院などサービス業で待ち時間があるなど、書いていただく時間があるところで収集するのがよいのでは。